

3月12日のウクライナ情報

安齋育郎

●ハンガリーのオルバン大統領の弁(2023年3月7日)

「ヨーロッパ全体が戦争に向かっている。ハンガリー政府は依然として世界の側にいる。私たちは戦争を終わらせたい…この戦争では誰も勝てない」

<https://twitter.com/i/status/1632994331928969216>



※投稿者コメント:ハンガリーのヴィクトル・オルバン首相は、EU がキエフ政権への武器供給でどこに向かっているのかを認識している唯一のヨーロッパの指導者です。

●ロシアとイギリスの経済事情(2023年3月9日)

これらの暴露写真は、生鮮食品の山の下でうめき声を上げているロシアの地方都市の店の棚を示しています。

英国のスーパーマーケットは、主にウクライナ戦争によって引き起こされた不足の中で卵と一連の果物と野菜を配給しているので、そのような困難はウラジーミルプチンの市民を苦しめていません。

写真は、モスクワから車で 24 時間のウラル山脈のバーミンガムほどの人口を持つ都市、ペルミのフードホール、スーパーマーケット、コーナーショップで撮影されました。画像は、プーチン大統領の侵略を罰するために課された、西側のロシアに対する自慢の制裁が深く噛み付いていないことを示唆している。

さらに、シーンは 40 年前の逆転であり、私たちの多くが共産党政権下のロシア人がパンや卵などの主食を求めて列を作っている哀れなテレビ映像を見ました。

今度は英国が苦しむ番です。ここのスーパーマーケットはトマト、キュウリ、ピーマン、レタスを配給しており、英国の農家はエネルギーコストの上昇に苦しんでおり、冬に温室を使用して栽培することをやめています。ラズベリーを含む柔らかい果物も店で見つけるのが難しいです。

エセックス州ロイドンにあるグリーンエーカーサラダのディレクターであるトニーモンタルバーノは、通常、年間 100 万キログラムのベビーキュウリを生産していますが、彼の温室は先月空でした。

彼は、月に最大 500 万ポンドの冬の燃料費が急上昇するのを避けるために、作物の栽培を遅らせ

ました。彼は今年、彼の生産が最大半分に削減されると予想しています。

「悲しくて悔しいけど、成長する余裕はない」と彼は言った。「私は利益を上げなければなりません。そうしないと、私が続ける意味がありません。多くの生産者がドアを閉めて売り切れています。」

英国生産者協会のジャック・ウォード最高経営責任者(CEO)は、「国の上下に、空の温室があります。キュウリを年に2、3回栽培する人は、より高価なエネルギーの使用を避けたいので、それを1つに減らすことができます。」

農家はエネルギーを大量に消費する小屋で産卵鶏を暖かく保つ費用を支払う余裕がないため、卵も配給されています。

その結果、私たちのチャートが示すように、ここの多くのステープルはロシアよりもはるかに高価です。

ペルミやロシアの他の場所の住民は、安い食べ物をたくさん持っています。ガスが豊富な国の低コストのエネルギーは、厳しい冬を通して野菜を暑い家で育てることができることを意味します。ロシアはまた、温暖な気候を楽しんでいるイランなどの同情的な国から大量の果物を輸入することができます。

また、家を暖房することへの不安もありませんが、車にたくさんの安いガソリンやディーゼルを充填するのは簡単です。

ロシアの所得税は、収入が16万3,000ポンド未満の人々の場合はわずか13%であるのに対し、英国の高収入者の場合は40%または45%です。

メールで連絡を受けたペルミの人々のランダムな選択は、価格と農産物の入手可能性、および毎月の光熱費を示す1週間のショッピングレシートを私たちに提供しました。さらに、彼らは多くの写真を撮りました。

彼らはまた、ロシアの公立病院は「優れたままである」と主張しているが、国の医療サービスへの住民の登録は雇用主によって全額支払われているため、使用時点では無料です。

プーチンの全面侵攻から一年が経ち、ほとんどの普通のロシア人は、ウクライナで莫大な犠牲者を出したロシア軍に徴兵されるのを避けることができる限り、毎日の剥奪に直面することはほとんどないようです。

情報提供者の身元を保護するために慎重な予防策を講じて、クレムリンによって監視されていないソーシャルメディアチャンネルを通じてペルミの住民と話をしました。

英国生まれのジョン(67歳)と彼のロシア人妻ヘレナ(51歳)が市内の2ベッドルームのアパートからメールに語ったように、「危機、どんな危機?ウクライナの状況にもかかわらず、私たちは普通に生活しています。私たちは、食品棚が空になった状態で英国で何が起きているのかを見えています。私たちはロシアにいて、ここで働いており、西側の制裁に苦しんでいません。」

悲しいです。多くの生産者が売り切れています

真実は、オリガルヒが英国から追い出され、ロシア-英国のフライトと送金が禁止され、石油の輸入が禁止されている一方で、その住民はピンチを感じていないということです。ロシアの豊富な国内エネルギー供給と支援国から購入する能力のために、食糧生産は活況を呈しています。

ジョンとヘレナは、ウクライナ紛争は彼らにとってほとんど興味がないと主張している。「平均的なロシア人は、暖かい家、テーブルの上に食べ物、ウォッカのグラス、そして路上での個人の安全を気にかけています。

「私たちはすべてを持っています。戦争によって何も変わっていません。」

ジョンは研究者であり、ヘレナは元大学講師です。プーチン大統領が先月の国民への年次演説で、インフレ率は英国の 10.1%に対して4%に低下したと私たちに話しました。



左は、ブリストルの Filton Asda。ウクライナ戦争の影響もあり、イギリスのスーパーマーケットでは卵や野菜・果物が不足しているが、プーチンの国民にはそのような苦難はない。右は、ロシア、ペルミの街の食品市場。この画像は、プーチン大統領の侵略を罰するために課された西側諸国の評判の良い対ロシア制裁が、深く食い込んでいないことを示唆している。

●重要拠点ロシアが「占領」 NATO トップも...実際は(2023年3月9日)

消防隊が向かう先には、赤々と燃える炎が...

場所は、ウクライナ東部のバフムトの近郊。

ロシア側の攻撃を受け、ガス配給所で火災が起きた。

激しい攻撃が続く東部戦線。

ウクライナの警察は、街に残っている住民のもとを訪れ、安全な場所へ避難するよう促している。

そんな中、ロシアの民間軍事会社「ワグネル」が、SNS に動画を投稿。

戦車にくくり付けられていたウクライナの国旗をはがし、火を付けた。

ワグネルのトップ・プリゴジン氏は、「われわれは、バフムト東部を完全に占領した」と発言。

重要拠点であるバフムトをめぐることは、欧米側からも「バフムトは、数日以内に陥落する可能性がある」といった声がある。

実際の戦況はどうなっているのか。

アメリカの研究機関は、「少なくともバフムトの半分以上をロシア側が占領した」としている。

しかし、バフムトの先はウクライナ軍が強力な防衛線を張っていて、「ロシア側は大損害を被る可能性が高い」とも分析。

ウクライナ側も、一時的にバフムトから撤退する可能性は認めつつ、その後の反撃で奪い返す準備をしているという。



●ロシア軍、ウクライナ全土に大規模な砲撃－少なくとも5人死亡(2023年3月9日)

(ブルームバーグ): ロシアはウクライナ全土の都市に大規模な砲撃を加え、少なくとも5人が死亡、数十万人が停電に見舞われた。ロシアは複数の兵器を使用し、大半がウクライナの防空網を回避した。

犠牲者はウクライナ西部リビウ近郊の住宅街にある自宅で亡くなったと、リビウ州知事がテレグラムに投稿した。

ロシア軍が民間のインフラ施設を狙い始めた昨年 10 月以降、ウクライナのエネルギー施設に対する大型ミサイル攻撃は今回で 15 回目となる。ウクライナ当局は、冬の一番厳しい時期を電力網は乗り越えたとするが、戦争の影響を受ける多くのウクライナ市民にとって寒さは引き続きリスクだ。

首都キーウやハルキウ、オデーサ、ジトーミルなどの主要都市で停電が報告され、深夜に鳴り始めた空襲警報は日が昇っても鳴り続けた。

ロシア軍が使用した兵器にはイラン製軍用ドローンのほか、保有するほぼ全ての種類のミサイルが含まれていたと、キーウ市軍当局がテレグラムで明らかにした。

キーウの防空部隊は極超音速ミサイル「キンジャール」を除き全て迎撃したが、他地域では迎撃率が低く、発射された合計 81 発のミサイルのうち迎撃は 34 発にとどまったとウクライナ軍のザルジニ総司令官がテレグラムで説明した。キーウ以外の攻撃目標に向けて発射されたドローン8機のうち、撃墜は半数だけだったという。キンジャールは空中から6発発射され、全てがウクライナの防空網をかいくぐったとも明らかにした。

ウクライナ国営原子力企業エネルゴアトムによると、欧州最大の原発施設であるザポリージャ原発はこの攻撃で送電網への接続部分が切断され、外部からの電力供給が失われた。

原題:Russia Shifts Tactics With Barrage That Kills Five in Ukraine(抜粋)

●「ノルドストリーム爆破」問題に新展開…独メディアが報じた真犯人「親ウクライナ勢力」とは誰のことなのか?(2023年3月9日)

※安齋注:ドイツはノルドストリーム爆破がアメリカの仕業であるにもかかわらず何もしなければ、「対米従属外交のへっぴり腰」と国民から批判されるので、「他の犯人を必要として」います。しかし、下の情報ハ、シーモア・ハーシュの詳細な情報に比べて全く説得力に欠けます。

昨年 9 月 26 日、一度も使わないうちに何者かによって爆破されてしまったロシアとドイツの虎の子プロジェクト「ノルドストリーム 2」。その後、米国、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、オランダ当局によって犯人探しが続いていた。

ドイツでの担当は連邦検察庁。一時はロシアが、自国のパイプラインなのだから捜査に加えろと要求したというが、聞き入れられなかった。そして、その後は一切何も聞こえてこず、ドイツ政府も機密保持ということでノーコメントだった。

今年の 2 月初めには、米国の著名なジャーナリスト、シーモア・ハーシュ氏が米国犯人説を発表したが、それも無視。国民の間からは、「政府は本気でやっているのか?」という声まで上がっていたほどだ。

ところが 3 月 7 日、ドイツメディアから唐突に、犯行は「親ウクライナ勢力」によるものであるという報道が出た。ドイツではこれまで政府も主要メディアも、「ウクライナは世界の民主主義のために戦っている」というスタンスで援助に精を出してきたのだから、紛れもなく特ダネである。

この報道の中心的存在だったのが、公営テレビ局である ARD(第 1 テレビ)。その ARD が、SWR(南西テレビ)、『ディ・ツァイト』紙と共同で、独自の調査を進めてきたという。

それによれば、犯行に使われたヨットが特定されており、すでに 1 月、連邦検察庁がそのヨット内の捜索を行なった。その際、船室のテーブルからは、火薬の痕跡が確認された。

また、犯人たちの足取りの一部も確認済みで、この犯罪に親ウクライナ勢力が関与している等々…



●ウクライナ大規模攻撃は領内侵入への「報復」ロシア国防省(2023年3月9日)

【AFP＝時事】ロシア国防省は 9 日、同日ウクライナに対して実施した大規模攻撃について、今月初めに起きたとされるウクライナ戦闘員によるロシア領侵犯に対する報復措置だったと発表した。

同省は声明で、「3 月 2 日にブリャンスク州でウクライナ政府が計画実行したテロ行為に対し、ロシア軍は大規模な報復攻撃を行った」と説明。極超音速弾道ミサイル「キンジャル」などを使用したとしている。(c)AFP



Russia's Kinzhal hypersonic missile
Moscow claims it has deployed the missiles in Ukraine

KINZHAL "Dagger"
Developed based on MiG-31 upgraded fighter jet

- Can elude most air-defence systems
- Manoeuvrable, hard to track and defend against
- Higher penetration and destructive power

Class: Air-Launched Ballistic Missile (ALBM)
Used against: Surface and waterborne targets
Speed: Up to 10 times the speed of sound
Range: 1,500 - 2,000 km

Warhead Type: Nuclear or conventional
Weight: 480 kg

Guidance system: Inertial guidance and satellite navigation, with terminal seeker

Sources: CSIS, Missile Defense Advocacy Alliance, FAS, Russian officials

AFP

●中国がロシアと協力 アメリカに「挑戦」米情報機関 政治・経済・技術・軍事的“脅威”に(FNN プライムオンライン、2023年3月9日)

アメリカの情報機関は、8 日、安全保障上の脅威に関する年次報告書を取りまとめ、中国が、ロシアとの協力関係を通じアメリカに挑戦し続けようとしているとの見通しを示しました。

報告書で中国について、ウクライナ侵攻が続く中ロシアと外交や防衛、経済関係を維持し「協力関係を通じてアメリカに挑戦し続けようとしている」との見通しを示しました。

またロシアについても中国と連携し「戦略的な関係を維持することになる」との見方をしています。

報告書ではアメリカの安全保障上の脅威となる国として、中国やロシア、イラン、北朝鮮の 4 カ国を挙げています。

アブリル・ヘインズ国家情報長官は、8 日、連邦議会上院の公聴会で、「世界中で経済的、技術的、政治的、軍事的に米国にますます挑戦している中華人民共和国は、私たちの比類のない優先事項であり続けています」と訴えました。



●“バフムト数日中に陥落の可能性”NATO 事務総長 ウクライナ大統領は“全ての領土を取り戻すため全力尽くしている”(2023年3月9日)

NATO＝北大西洋条約機構のストルテンベルグ事務総長は、ロシアが制圧に向け攻勢を強めるウクライナ東部の要衝バフムトについて、「数日中にロシア軍によって陥落する可能性がある」と指摘しました。



●ウクライナ全土で大規模攻撃 11 人死亡 ロシア国防省「テロへの報復攻撃」(2023年3月10日)

ウクライナ全土でロシア側による大規模な攻撃があり、あわせて 11 人が死亡しました。ロシア国防

省は「テロへの報復攻撃だ」としています。

ウクライナの首都キーウで 9 日、ロシア軍のミサイル攻撃があり、2 人がけがをしました。西部リビウ州では住宅地にロケット弾が着弾。火災が発生し、5 人が死亡しました。さらに、南部ヘルソンなどで 6 人が死亡しています。

IAEA=国際原子力機関のグロッシ事務局長は、南部ザポリージャ原発について、攻撃で外部電源が切断されたと発表。その後、復旧しましたが、一時、非常用発電機が稼働しました。

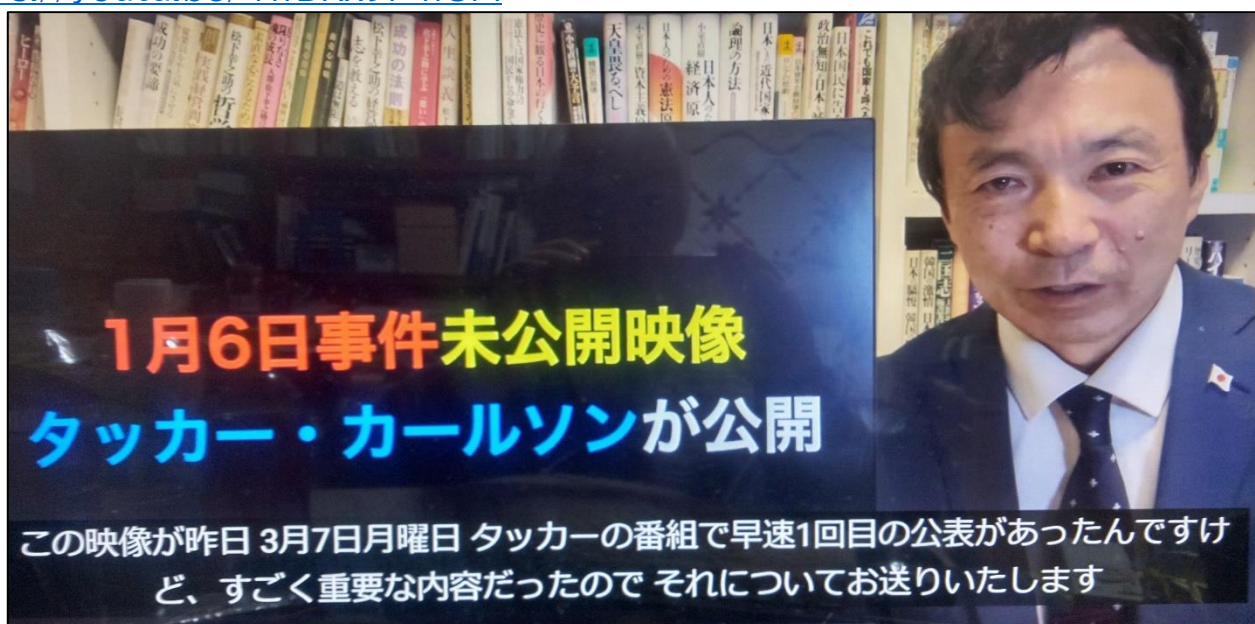
一方、ロシア国防省は「今月 2 日、西部ブリャンスク州でウクライナ側が行ったテロ行為に対し、大規模な報復攻撃を実施した」としています。



●「1月6日事件」についてタッカー・カールソンが公開した映像(及川幸久、2023年3月8日)

※安斎注:「1月6日事件」とは、言うまでもなく、トランプ支持者が米国議事堂になだれ込んで、100数十人が逮捕されたという事件です。しかし、この事件が「仕組まれた茶番劇だった」ことを示唆する重要な映像が公開されたというのです。しかも「歯に衣着せぬ物言い」のタッカー・カールソンの番組で。ウクライナ問題に直接関係ありませんが、アメリカ政界の裏部隊の構想模様を見ておいて下さい。

<https://youtu.be/4wBRx9r-w3M>



●「ロシアのせいにしてよう大作戦」を見直すーマリウポリ産科・小児科爆撃事件

ロシアがマリウポリの産科病院を爆撃したという情報もフェイクだった。

小児・産科病院爆撃事件(2022年3月9日)



人形を抱いて非難する女優さん

産科病院はかなり前に廃止され、ウクライナ軍の軍事施設になっていた。ゼレンスキー大統領が「マリウポリの小児病院をロシアが空爆し、子どももがれきの下にいる」と言ったのは作り話だった。

左の写真の退避する妊婦はCMにも出ている女優マリアンナ・ポドグルスカヤさんで、美容ブロガーのインフルエンサーとして有名、抱いている赤ちゃんは人形、顔の血痕はペンキだった。ペンキのバケツが映像に映っていた。

しかし、日本のマスコミ報道はフェイク・ニュースを垂れ流し続けた。

NHKの露骨な視聴者誘導

山口敬之の深堀世界の真相 No76

3月11日には、アゾフ連隊の本拠地であるマリウポリで「産院がロシア軍の攻撃を受け妊婦や子供に被害が出た」というニュースが世界に発信された。

私は「マリウポリの総合病院がアゾフ連隊の支配下に入っている」という情報を事前に得ていたので、まず「人間の盾」戦術によるプロパガンダを疑った。

ところが日本の大手メディアはこの「産院爆撃」がウクライナ政府内のネオナチ勢力による情報戦の一環である可能性を全く検証する事なく、徹頭徹尾「ロシア軍の残虐行為」を強調した。

●「ロシアのせいにしてよう大作戦」を見直すーマリウポリ科劇場爆撃事件

ロシアによるマリウポリ劇場爆撃も、証言と証拠でウソであることが分かった。

マリウポリ劇場空爆事件

2022年3月16日 どんな調査したんだか?



人権団体アムネスティ・インターナショナルは6月30日、ウクライナ南東部の都市マリウポリで3月にあった、ロシア軍による劇場の空爆について、「明確な戦争犯罪」だとする報告書を公表した。劇場には当時、数百人の民間人が避難しており、少なくとも12人が死亡したとしている。

これもアゾフの「人間の盾」作戦で、天井の貫通孔は下から上に向っていた。

劇場にいた住民の証言

アゾフ大隊の本部がドラマ劇場の地下にあり、劇場ホールは平和な人々で完全に埋まっていた、彼らが逃げないようにアゾフの12人の過激派が警備していた。

産婦人科病院の嘘が失敗した後、ウクライナ兵は劇場と結託して女性、子ども、老人を劇場に集め、劇場を爆破して世界にロシア空軍の仕業だと叫び、ウクライナの空を閉鎖しろと訴えています。

調査の結果、天井の貫通孔は「下から上に向かっていた」ことが分かった。

●「ロシアのせいにしてよう大作戦」を見直すーロシア兵によるレイプ事件

ロシア兵がウクライナの少女をレイプしているというウソ情報もあった。

ロシア兵による少女強姦



ウクライナ議会の人権委員リュドミラ・デニソヴァは、ロシア軍が首都キエフ近くのブチャ市を占領期間中に未成年者を強姦したと非難した。

デニソヴァは彼女のフェイスブックに、ロシアの占領者によってレイプされたとされる少なくとも2人の未成年者、14歳の少女と11歳の少年の事件をリストした投稿を発表した。

驚くことに、ウクライナ人権オンブズマンの作り話だった。

こういう「迫真の証言」

ウクライナの人権オンブズマン、リュドミラ・デニソヴァさんは「ブチャにある家の地下室で14歳から24歳の少女や女性25人がロシア軍の占領中に組織的にレイプされました。そのうち9人が妊娠しています」と英BBC放送に証言している。「ナチスの売春婦はみんなこうなる」と16歳の妹が路上でレイプされるのを見なければならなかった25歳の女性もいた。



レイプ被害者の救済のために調査しようとしたが、事実を確認できなかった。

真相はどうだったのか？ デニソヴァによる作り話だった!!

ウクライナ政府は、ロシア兵によるレイプ事件は、**リュドミラ・デニソヴァによる作り話だった**として、残りの任期1年を待たずして解雇した。

デニソヴァが発信するロシア兵による性犯罪や小さい子供に対するレイプ事件については、**ウクライナ国内で事実関係が確認されず**、かえってウクライナに悪影響を与えるということでメディアやプロパガンダ制作関係者まで「ドン引きした」。



ロシアに圧力をかけ、世界から武器をもらうために作り話を流したという。



リュドミラ・デニソヴァ デマ情報への関与を認める

国会議員バヴェル・フロロフは、オンブズマンが性犯罪とされるものや「占領地での未成年者への強姦」には「不可解な点があったが、彼女は証拠を示せず」、ウクライナに書を及ぼしただけだったと語った。